

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和7年度第1回相模原市地域福祉推進協議会			
事務局 (担当課)	健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222 (直通)			
開催日時	令和7年7月29日(火)午後2時00分～3時15分			
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	その他	3人(相模原市社会福祉協議会職員)		
	事務局	地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、在宅医療・介護連携支援センター所長、高齢・障害者福祉課長、精神保健福祉センター所長、生活福祉課長、市民協働推進課長ほか4名		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 題</p> <p>(1)副会長の選任について</p> <p>(2)地域共生社会推進計画の成果指標及び補助指標の進捗状況・評価について</p> <p>(3)計画見直しに係る基礎調査票(案)について</p> <p>(4)その他</p> <p>4 閉 会</p>			

# 審 議 経 過

内容は次のとおり。

## 1 開 会

## 2 あいさつ

地域包括ケア推進部長よりあいさつを行った。

## 3 議 題

### (1)副会長の選任について

(笹野委員) 長年本協議会の副会長は22地区社会福祉協議会の会長でもあった飯沼委員に担っていただいております、今回後任として成瀬委員が就任されている。22地区社会福祉協議会というのはまさに地域福祉の最前線の現場で活動されており、成瀬委員は城山地区社会福祉協議会の会長になる以前から長年地域で活躍されている。現在は、城山地区という活動も活発な地区社会福祉協議会の会長も担っており、現場のことにも現場の方にも精通されておりますことから成瀬委員にお願いしたいと思う。

(委員一同) 成瀬委員の副会長への選任の同意。

(小野会長) 成瀬委員へ就任依頼。

(成瀬副会長) この市推進協議会については、前任の飯沼委員からも情報がなかったため全く分からないが、今回の資料にもあるが、アンケート調査には携わっていたという認識である。分からないことばかりであるが皆さまに協力いただきながら務めていきたいと思う。

### (2)地域共生社会推進計画の成果指標及び補助指標の進捗状況・評価について

【事務局】資料2により説明。

(安永委員) 4ページの成年後見制度利用促進基本計画の成果指標である成年後見制度利用者数についてだが、以前もお伝えしたかもしれないが、利用者数だけ見てしまうと、毎年毎年お亡くなりになる方がいて申し立てする件数があるの増減となると思うが、どちらかという申立件数を備考に記載してほうがよい。また、市長申立件数というのが、市としてどれだけ活動したかというものに直結するかと思うため、市長申立件数もある程度分かったほうがよい。もう一点、報酬助成について

である。成年後見の事務を担っていただいている方に対して、どれだけ報酬が確保できているかという点も確認できたほうがよい。そうすることで、計画に即して市がどれだけ取組を行ったかなどの効果測定という点で市の取組が見えやすい部分であるため、備考欄でもよいので記載いただけるとよいかと思う。

【事務局】市の取組を評価いただけるような指標を掲載した方がよいとのご意見いただいたところだが、6年度実績についての指標が手元にないため、この場でのご回答は難しい。ご意見いただいた指標については掲載する方向で検討していきたいと思う。

### (3) 計画見直しに係る基礎調査票(案)について

【事務局】計画見直しに係る基礎調査概要資料3、各種調査票(案)資料3-1～3及び前回調査票資料3-参考資料1～3により説明。

(小野会長) 一点気になることがあるが、民生委員児童委員向けのアンケート調査の回答期限が11月28日となっている。今年は3年に1度の民生委員の改選期であるため、もう少し回答期限を早める必要があると思う。できれば、10月中期限のほうが良いのではないか。

【事務局】今年度改選ということで、民生委員の選出に係るスケジュールについて担当課に確認を行い、回答しやすいスケジュールにて設定したいと思う。

(佐藤委員) 資料3-2の地区社会福祉協議会向けのアンケート調査の2ページ目について、このアンケートは地区社会福祉協議会の個人ではなく、会としての回答となると思うが、質問1で組織構成の質問となっているが、必要があるのか。これは、地区社会福祉協議会の事務局や市社会福祉協議会にて把握しているのではないか。

【事務局】会の組織構成について、他の資料にて把握できるかを確認した上で、設問とするか否か検討する。

(笹野委員) 先ほどの事務局からの説明の中で、民生委員児童委員向けのアンケート調査について、外国人に対する項目を増やしていただいているが、おそらく、前回大貫委員が質問した内容については、民生委員児童委員の方の課題としてということよりは、地域福祉の推進という観点から、アンケート以外の場面で外国人市民がどのような課題を抱えているかということ把握することがよいのではないかと

いう趣旨だったのではないかと思う。このアンケート調査は経年の変化を見ることが主体となっていると思うので、このアンケート調査に盛り込むというよりは、現在外国人市民は明らかに増えており、外国人市民に対する課題については、あらゆる場面で影響が出てくるものであると思われるため、何かしらの方法で把握する方法を検討いただきたい。

もう一点、市民向けアンケート調査について、12ページの間30だが、各取組や機能について分かりやすく記載があるが、そもそも、市社会福祉協議会や地区社会福祉協議会について、抽出された3,000人の方がどれくらい認知しているのか。おそらく、抽出される方は民生委員などの活動をされていない方が基本になると思われるため、可能であれば、アンケート調査の中に市社会福祉協議会や地区社会福祉協議会がどのようなものなのか分かるような説明の記載をいただきたい。また、子どもの頃からの縁づくりについて盛り込んでいただけたのはよかった。

【事務局】まず、市社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会の説明の盛り込みについてだが、本計画策定に先立ち、令和5年度にオープンハウスを実施し、広く市民へ意見聴取を行った経過がある。そのアンケートの中には市社会福祉協議会や地区社会福祉協議会を知っているかという設問を設けていた。その中で、一定数全く知らないという回答もあったため、このアンケートに設問を設ける、又は、設問を設けないとしてもアンケートを活用し社会福祉協議会の存在や取組を知ってもらうような説明を加える方向で検討する。

また、外国人市民へのアンケートについてだが、前回の審議会でも複数の委員から意見をいただき、事務局にて確認したところ、さがみはら国際プランという計画に係る市民アンケートにて外国人市民へのアンケートを行っていた。このアンケートの中に、外国人の方の分からないこと・相談先・地域活動への参加状況や教育上での困りごとなど、まさに地域福祉計画に関連する項目となっているため、こういったアンケートを活用する中で、計画への反映を考えていきたいと思う。ただし、このアンケートの実施が来年度のため、地域福祉計画の中間見直しに反映ができるかというのが、スケジュール的にタイトとなる可能性もあるため、担当課とも改めて確認し、引き続き検討していきたいと思う。

(佐藤委員) 資料3-1の設問9について、この審議会もそうだが、社会福祉士の先生・弁護士・司法書士の方や私も行政書士であり、成年後見等で福祉に携わっている地域の専門家も数多くいらっしゃるのでもそういった方も設問に追加してほしい。

【事務局】成年後見制度の普及に伴い、専門的な知見を持った方への相談というのも増えていると考えられるため、選択肢に追加する方向で検討させていただく。

(安永委員) 市民向けアンケートの3,000人のうち例年どのくらいの方が回答しており、どのくらいの方が調査票又はインターネットでの回答なのか分かれば教えてほしい。

【事務局】 前回のアンケート調査では、3,000人のうち1,443人から回答あり、割合としては、48.1%という回答となっている。

(安永委員) 思っているよりも回答率が高く驚いている。QRコード等も普及すればより増えるかなと思う。

(小野会長) 前回の48.1%というのは高い方である。昨日、川崎市の地域福祉計画の会議に参加したが、35%程であった。

(渋谷委員) 3,000人について相模原市の48%という数値を少しでも上げていく取組があれば教えていただきたい。

【事務局】 48%という数値に満足してはいけないと思っており、この数値を上げるためにインターネットによる回答や引き続き紙ベースでないと回答が難しい方も一定数いらっしゃると思うので、その辺りをバランスよくやっていき回答率を高められるよう検討していきたいと思う。

(小野会長) 回答期限前にお礼状及び催促状のようなものは送付しているのか。

【事務局】 未回答の方については、催促ということではないが、再度手紙にて回答をお願いするという取組は行っている。また、回答期限についても併せて検討していきたいと思う。

(和田委員) 資料3-1問38の1について、直接会ってという表現とした理由はあるか。

【事務局】 前回アンケート時にも質問いただいた回答項目は盛り込んでいるが、現時点で、いつ・どういった理由で追加したのかが分からないが、この部分については項目として盛り込むか否かを踏まえ検討していきたいと思う。

(小野会長) 質問があったように、「直接会って継続的に」という表現は変更するのがよいと思われる。最近では、少年院を出た方も満期出所であり、直接、保護観察所等へ行くため、だんだんと保護司との関わりもなくなってきていることも踏まえると検討が必要である。

(恒藤委員) 資料3-1の問30について、例えば、若者サポートステーションといった若者に関する機関を追加していただくことや一般市民には聞きなれないものが多いので地域包括支援センター等に入れていただくのは如何か。

【事務局】現在のアンケート調査案に記載されているものは比較的、地域福祉の窓口に近いものを選んでいっているものであるが、本市においても包括的支援体制に取り組んでおり、各分野を分け切れない部分もあるため、ご意見については検討させていただければと思う。

(安永委員) 資料3-1の問38について9の「協力したいと思わない」という項目があるが、こういったネガティブなことを聞いた場合に括弧書きで選んだ理由を追記いただくようにした方が良いのではないか。

(恒藤委員) 資料3-1の問8について、項目が広い範囲のため、例えば、子育てについての何が悩みなのかなど一言記入する欄を入れる等検討いただきたい。

(小野会長) 理由を細かくするとバラつきが出るため数字に意味が出なくなってしまうこともあるため、難しいかもしれない。

(恒藤委員) 数字としての意味がなかったとしても、今後、地域福祉を検討していく中での情報を得ることはできるのではないか。

【事務局】まずは、統計上の数値として様々な傾向を掴んだ上で、例えば、自由記載という形で個々の意見を伺うといった方法等検討していきたい。

(小野会長) 例えば方法として、※印をつけた上で、この中の悩みについて詳しい内容がある場合は問40の自由記載に記入していただきというように案内するのも一つである。

【事務局】いただいた意見を参考にしていき、次回の審議会にて案を示せばと考えている。

(森下委員) 市民の気持ちを知りたいという意見もあったが、地域福祉計画については、様々な分野の横串を刺す計画であり、子育てや障害などの分野も含まれており、そちらでアンケート調査というのはあるのか。アンケート調査があるのであれば、そちらの方で具体的な内容の調査をするということもできるのではないか。

【事務局】 高齢、障害、こどもの計画についてもアンケート調査を行っている。また、地域福祉計画については、それらの各分野の横串をさすような計画となっており、福祉という比較的範囲を広く捉えた質問となっており、計画に反映している形になっている。他の分野のアンケート調査内容を踏まえ設問は検討していきたい。

#### (4) その他

(事務局) 次回の審議会は令和7年10月頃の開催を予定しているが、今回アンケート調査の時期を早める必要があるのではないかとご意見いただいたところであるため、改めて日程調整させていただいた上で、次回の審議会を開催したいと思う。

## 5 閉 会

以 上

## 相模原市地域福祉推進協議会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会		欠席
2	小野 敏明	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 田園調布学園大学名誉教授	会長	出席
3	鍛冶 雄樹	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
4	笹野 章央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会		出席
5	佐藤 勝己	公募市民		出席
6	渋谷 健太郎	公益社団法人 成年後見リーガル・サポート 神奈川県支部		出席
7	清水 淳一郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		欠席
8	恒藤 玲子	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
9	中谷 正代	相模原市障害福祉事業所協会		欠席
10	成瀬 貞司	相模原市22地区社会福祉協議会	副会長	出席
11	松崎 早希	公募市民		欠席
12	森下 美香	公益社団法人 神奈川県社会福祉士会		出席
13	安永 佳代	神奈川県弁護士会		出席
14	山口 信郎	相模原市自治会連合会		出席
15	和田 隆一	相模原市保護司会協議会		出席